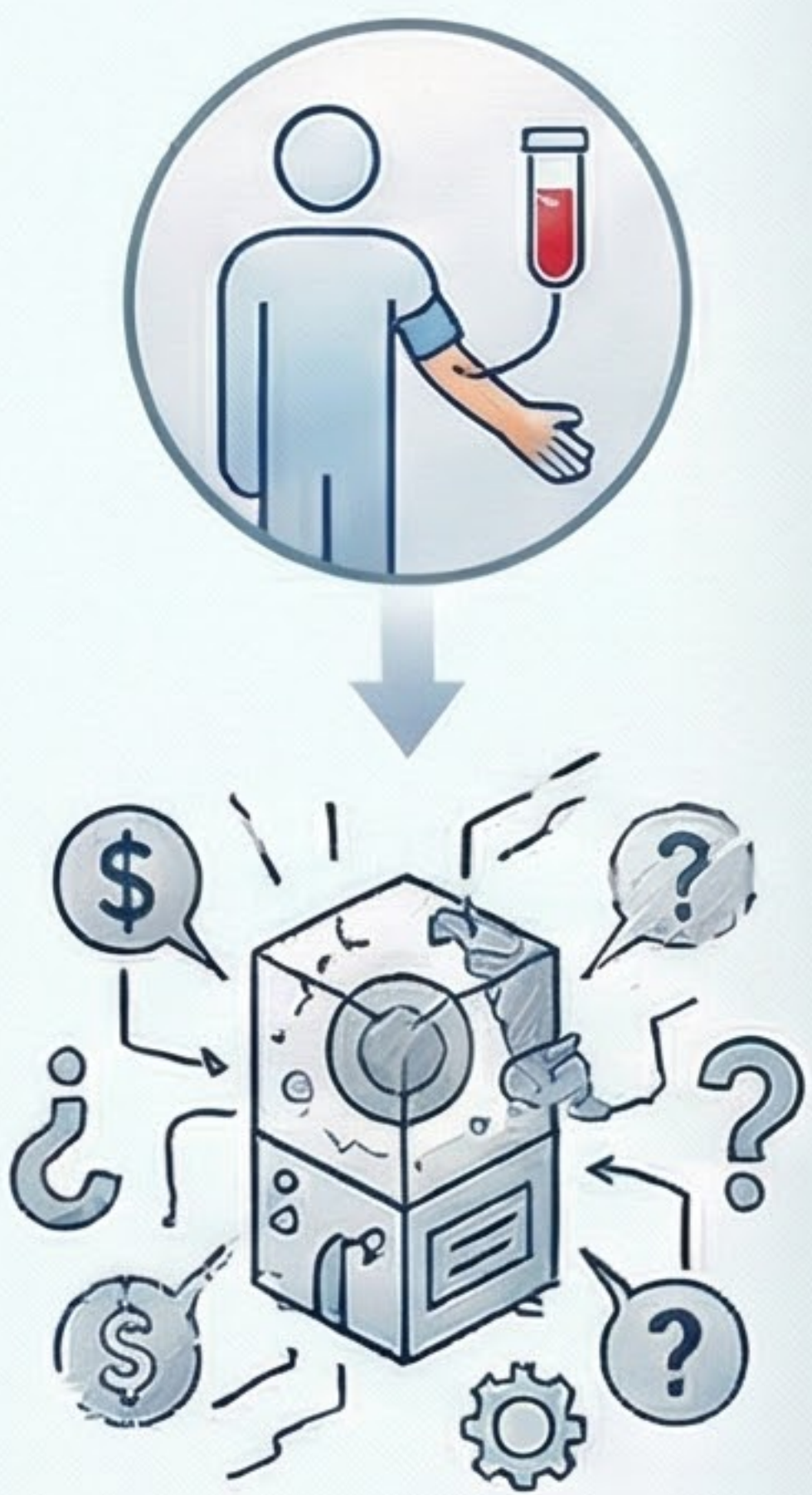


次世代Treg細胞療法：日本の勝ち筋

制御性T細胞（Treg）の発見国でありながら商業化で遅れを取った日本。iPS細胞技術と製造インフラを核とした次世代療法で、グローバル市場のリーダーシップ奪還への明確な戦略が存在する。

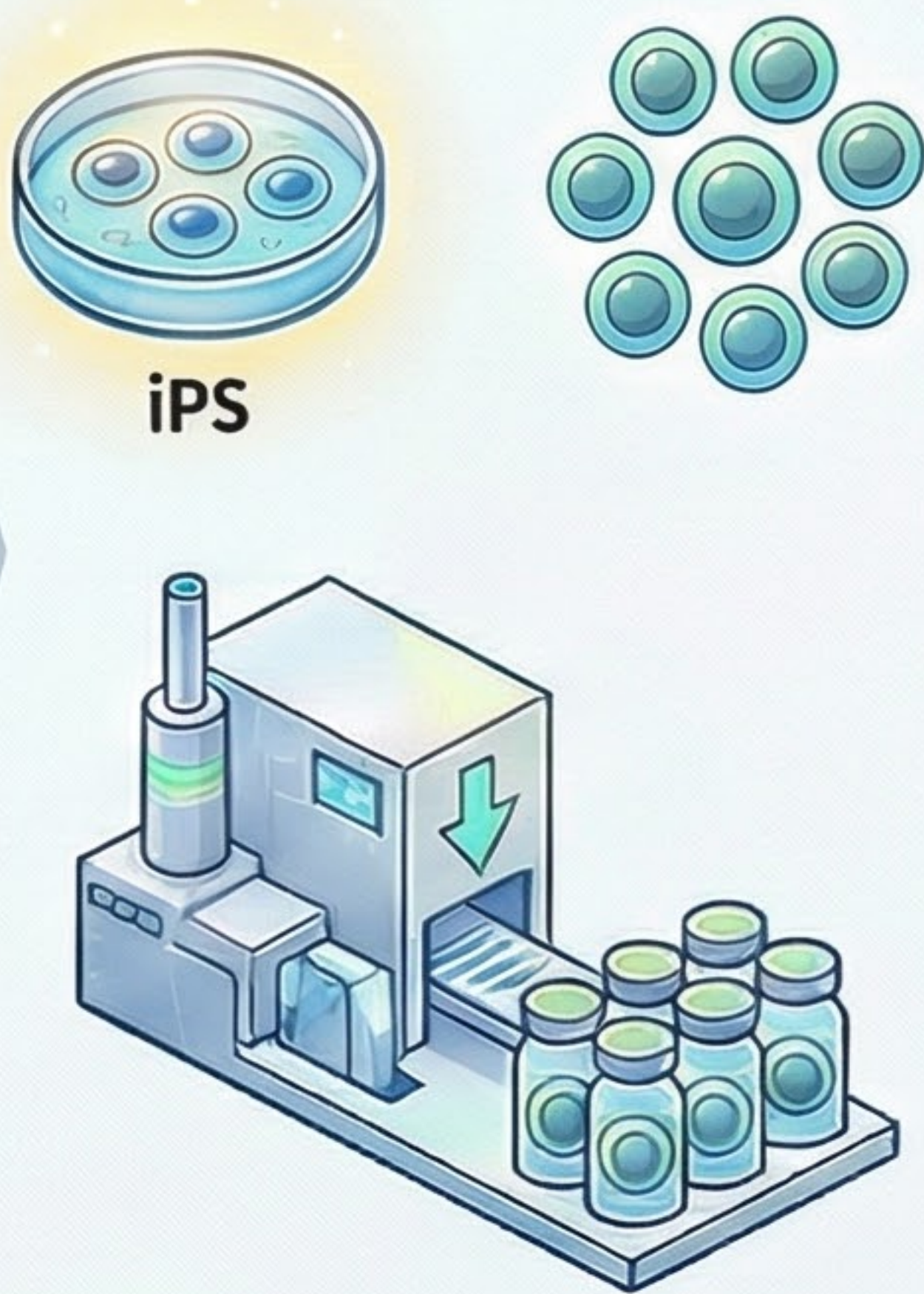
パラダイムシフト：治療法の進化

【第一世代】
自家Treg療法



患者ごとの個別製造で高コスト。
品質のばらつきや不安定性が課題。

【第二世代】
他家・エンジニアリングTreg療法



iPS細胞技術で大量生産。低コスト
で高品質な「既製品」を目指す。

日本の逆転戦略：3つの切り札



① 革新的技術プラットフォーム
iPS細胞技術で拒絶反応を回避し(Shinobi)、
エピジェネティック制御で細胞を安定化
(RegCell)。

② 製造エコシステムの垂直統合
S-RACMO(製造)、キヤノン(品質管理)、
パナソニック(自動化)の連携でコストを破壊。

米国企業

日本企業



③ 日米ハイブリッド開発戦略
「研究開発は日本、臨床・資金調達は
米国」という分業モデルで開発を加速。

プレイヤー別 開発状況と資金調達

資金調達規模:
大

資金調達規模:
中～大
(急拡大中)